

アスパラガス「はるむらさきエフ」における 春どり収量向上のための立茎本数

福島県農業総合センター 会津地域研究所

1 部門名

野菜－アスパラガス－作型・栽培型

2 担当者

芳賀紀之・鈴木宏和・大竹真紀

3 要旨

県オリジナル品種「はるむらさきエフ」の露地長期どり栽培において、若茎の紫の着色は、春期は良好であるが、夏期はやや悪くなる場合がある。そこで、高品質な春どりの収量向上のため、立茎本数について検討したところ、立茎本数5～6本が適することを明らかにした。

- (1) 収量は、立茎本数5～6本では、3～4本に比べて夏秋どりはやや減少するが、翌年の春どりは最も多くなる(図1)。
- (2) 1茎重は、立数本数5～6本では、3～4本に比べて夏秋どりはやや減少するが、翌年の春どりは同程度である(図2)。
- (3) 春どりの規格別収量は、立茎本数5～6本では、3～4本に比べてA2L級はやや減少するが、AL級は同程度である(図3)。
- (4) 立茎本数を5～6本確保するには、夏秋どりの時期に株あたり1本程度の追加立茎が必要となる。

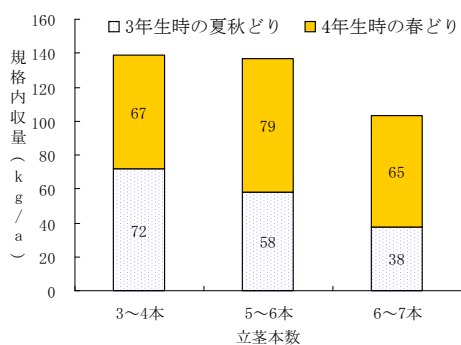


図1 立茎本数の違いによる収量

注)立茎本数は3～4本(3.6本)、5～6本(5.3本)、6～7本(6.5本)
立茎の太さは、14～15mm

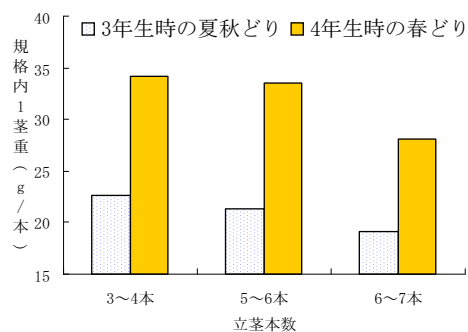


図2 立茎本数の違いによる1茎重

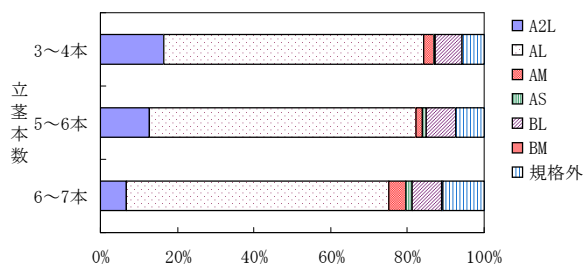


図3 春どりの規格別収量(重量%)

4 主な参考文献・資料

- (1) 平成21年度～22年度センター試験成績概要